



学校教育目標		真の輝きと夢ふくらむ 高須小教育 ～ 未来を拓く基盤(根っこ)をつくる ～			
a ミッション	組織的で安定した学校経営による学校文化の更なる定着			a ビジョン	高須小スタンダードと夢キラチェックを基盤とした「人づくり」 ◆基礎・基本が徹底した子供 ◆頼れる教師 ◆風格ある学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成値	達成値	達成度			イ	ロ	ハ		
未来を拓く基盤(根っこ)としての育成	自己指導力の育成 自ら伸びる児童を育てる	基礎・基本となる学力の定着	高須小スタンダード【知①～⑦】の達成	○テスト等により、以下を目指す ＜前期＞・知 ① → 100% ②、③ → 100% ＜後期＞・知 ① → 100% ②、③ → 100% ④、⑤ → 100% ⑥、⑦ → 100%	80%	34.7%	43.4%	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「単元末テスト」の目標値を達成できたのは33.3%であった。国語科・算数科とも評価問題等で児童一人一人の学力定着状況を把握し、理解が不十分なところは、ふり返り活動を行う等、指導法の工夫が必要である。</li> <li>②「漢字検定」においては、目標が達成できた学級は25%であった。学期末までに取組の進捗を全て定着させるため、効率的な反復学習の実施と家庭学習の充実を図っていかなくてはならない。</li> <li>③「計算検定」の目標が達成できた学級は45.8%であった。算数科の基礎・基本となる学力の定着に課題がある。学力定着に向けて繰り返し学習していかなくてはならない。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に向けて、繰り返し学習することの大切さが分かります。ご指導よろしくお願ひします。</li> <li>各目標値を達成するために、何が必要かを分かりやすくまとめているので、各学級のこれからの取組で達成値も上がってくとお思います。1月の達成値が楽しみです。</li> <li>高須小スタンダードを定着させるために、より一層の職員研修・家庭学習の充実に取り組んでください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の理解が深まるよう、授業での指導の工夫や学習の振り返りを継続して行う。</li> <li>基礎・基本となる学力の定着に向けて、期間や方法を計画し、根気強く取り組む。</li> <li>家庭学習を充実させ、学力の定着を図る。</li> </ul>	
		社会性・規範意識の定着	高須小スタンダード【徳①～⑤】の達成	○夢キラチェックの児童自己評価により、以下を目指す ＜前期＞・徳 ② → 100% ＜後期＞・徳 ⑤ → 100%	80%	76%	95%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>②「無言移動」に関しては、児童による自己評価で肯定的な評価が76%と目標値を達成することができなかった。しかし、児童会が中心となり、児童が主体的な取組を行なったことがよかった。</li> <li>担任がいるときは静かに行動・活動できるが、そうでないときにできていない実態が見られる。どんな場面でも自己判断し行動できる力を伸ばす必要がある。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>児童会が中心となっていて取組んでいることが、とても頼もしいです。もっと自ら考えて行動できるようになってほしいです。</li> <li>児童が主体となって取組んでいることは、とてもいいことだと思います。児童達だけの場面で、お互い注意し合える関係になれることを期待しています。</li> <li>「挨拶」の取組評価が低いことが気になるります。学校だけの取組だけでなく、家庭での習慣付けも必要だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無言移動、無言掃除をする意義をもう一度児童に周知する。</li> <li>掃除担当の工夫をし、どの掃除場所にも教員を配置できるようにするとともに、教員も一緒に掃除を行い、掃除の仕方を習得させる。</li> <li>教室移動の仕方、掃除の仕方について、中学校と連携し、統一した取組みが進められるようにする。</li> </ul>	
		体力と安全行動実践力の定着	高須小スタンダード【体①～③】の達成	○夢キラチェック、新体力テストにより、以下を目指す ＜前期＞・体 ①～③ → 100% ＜後期＞・体 ①～② → 100%	80%	60.6%	75.8%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「安全行動」においては児童の肯定評価は86.7%であった。例年6月の達成割合が低下していたため、今年度は全校集会での委員会発表を行った。</li> <li>②「給食完了」は、児童の自己評価は22.5%と目標値を達成できた。2学期以降も身体の発育に際して完了を目指す指導を継続していく。</li> <li>③「新体力テスト」の結果、4項目が全国平均を上回った児童が8割の学級は全校で3学級と12.5%の達成率であった。行動体力の底に大きな課題がある。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期以降も引き続き指導よろしくお願ひします。</li> <li>児童の安全行動の意識向上は、とても大切なことなので、これからも委員会発表等を計画的に行なってほしいです。</li> <li>給食完了については、個人差もあるのですが、無事、長い目で見守ってほしいです。</li> <li>グラウンドの広さは限られていますが、児童が思い切り体を動かせる時間が増えるといいです。</li> <li>達成度は低いですが、よい取組ができているとお思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全行動実践力を高めるために日常の指導と委員会の常時活動を中心に、取組を継続していく。また、安全行動を促すような学習環境を整備していく。</li> <li>2学期に給食委員会の発表を行い、食に対する児童の意識を高め、完了を目指す。</li> <li>職員研修において新体力テストの結果を分析し、取組の見直しをする。家庭との連携を深めながら、様々な機会を捉えて運動に親しませる。</li> </ul>	
集団向上力の育成	共に伸びる集団を育てる *集団→学級 学年 学校	集団の一員としての自覚と団結力の向上	児童会目標に関する取組の設定・実施・ふり返り	○夢キラチェックの肯定的評価の割合 ・「みんなで決めた目標やめあてに力を合わせてとりくんでいます」 ＜前期＞・運動会 ＜後期＞・学習発表会	80%	93%	116%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の肯定的評価の割合は93%であった。児童会目標を児童の目に触れるよう、掲示や振り返りを行う工夫を行った。そのことで、児童の意識が高まり効果が見られた。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価の向上に向けて頑張っしてほしいと思います。</li> <li>6年生が中心となって、低学年を支えて、全校一丸となつて、取組んでいくことを後期の学習発表会でも生かしてほしいです。</li> <li>達成度の高さにある様に「夢キラ高須っ子」らしさが出ているとお思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人が目標や取組を自分のこととして考える学級会を展開することで、全校一丸となつて取組めるようにする。</li> <li>帰りの会等で日々の取組を振り返り、目標に対して頑張っている児童の姿を互いに認め合う場をつくる。</li> </ul>	
		社会に役立つ心と力を育てる	奉仕する実践力の向上	児童会目標に関する取組の設定・実施・ふり返り	○夢キラチェックの肯定的評価の割合 ・低学年「みんなのために係活動をした」 ・中学年「係活動の大切さが分かり、進んで活動をした」 ・高学年「係活動の意義が分かり、意欲的に活動をした」	80%	87.8%	110%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の肯定的評価の割合は87.8%だった。係や当番活動を一人一人に位置づけ、取組を進められるようにしている。高学年では、さらに主体性・自主性のある行動を求めていきたい。</li> </ul>	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなのため、誰かのために係活動をすることの大切さをしっかりと感じてほしいです。自分が行動することで、人の役に立っているという意識が高まると、自分を大切にし、みんなにやさしくなれ、肯定的評価が高まるとお思います。</li> <li>どの学年でも自分に任された当番活動をしっかりとこなせていることは、今後の児童の自信につながっていくとお思います。後期もこの調子で頑張ってください。</li> <li>引き続き継続した取組を行うとともに、質の向上も目指してほしいとお思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>係活動での取組や成果を認め合う場を多く設け、人の役に立っている意識を高める。</li> <li>教職員間で、係活動に主体的に取り組める手立てを交流し、活動の質を高める。</li> </ul>

【自己評価 評価】  
A: 100% ≤ (目標達成)、B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100、C: 60% ≤ (もう少し) < 80、D: (できていない) < 60

【外部評価】  
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。